

瑞岩寺報

2015.08.01
(平成27年 葉月)

【お盆号】

お盆総合案内

お盆法要

今年のお盆法要は左記の通り行なわれます。

【期日】8月1日(土)

【時間】午後1時～

【お盆の供養料】

◎先祖供養塔婆 5,000円

◎新盆供養塔婆 10,000円

【内容】檀信徒すべての精霊のお盆法要をします。

◎新盆塔婆供養

◎先祖塔婆供養

◎『般若心経』

◎御詠歌

法要後、お塔婆をお持ち帰りください。

粗品がございますので出欠席のハガキを返信ください。

お盆棚経参り

【期日】8月2日(日)～8月10日(月)

例年通り各家へのお盆のお参りはお盆法要終了後から開始します。住職が早朝から夜まで約320軒の檀家さんを回りお棚経をあげます。お布施は

結構ですので、どうしても都合の悪い場合は都合のよい日を返信ください。短い時間ですが、ご家族と一緒に参りをお願い申し上げます。

お盆参り予定日程 ※多少変更される場合もあります

7月18日(土)～26日(日)	東京・神奈川・埼玉南部
8月2日(日)	太田市外(群馬県外・前橋・館林地区)
8月3日(月)	太田市外(足利・桐生地区)
8月4日(火)	太田市内(太田地区)
8月5日(水)	萩原地区、その他
8月6日(木)	七日市、落内、唐沢地区
8月7日(金)	丸山、清水、反丸地区
8月8日(土)	矢田堀地区
8月9日(日)	矢田堀地区
8月10日(月)	(予備日)

【時間】〈早朝〉6:00～9:00／〈午前〉9:00～12:00／〈午後〉12:00～15:00／〈夕方〉15:00～18:00

お墓そうじ

瑞岩寺にお墓のある方へのご案内です

【日時】7月26日(日) 午前6時頃から

お盆が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お盆前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

◆強制ではありません。この日この時間でないといけないということではありません。◆自分のお墓の掃除が終わったら通路など共有の場所のお掃除も積極的にお願いします。◆遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心を。◆飲み物の用意、あります。

Attention!!

以下の点に留意ください。

【お盆法要について】

◎お盆供養塔婆について、「必要」・「不要」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」の場合はお盆法要に「出席」・「欠席」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」で「欠席」の場合は、必ず8月2日以降に塔婆を受け取りに出てください。

塔婆供養料の振込みを同封します。毛里田地域の方は世話人さんにお渡しください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

【市内・県内外の檀信徒の方に】

市内・県内外の方は同封の振込用紙

をお使いください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

【お盆参りについて】

◎お盆参りについて「必要」・「不要」をハガキに記入してください。

◎「必要」と記入されたお宅には、8月初めにお参りします。

◎「不要」ならびに「返信なし」の場合はお参りには伺いません。

「必要」だけ日時が合わない場合は、希望日をお書きください。調整いたします。

返信期日までに必ずお送りください。その結果により順番を決めお参りします。

返信葉書は7月31日必着です。

【永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ】

永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

【ペット供養墓関係者の方へ】

ペットの合同供養は左記の通り行なわれます。

【日時】8月1日(土) 午前10時より

【お盆のペット塔婆供養料】4,000円

◆強制ではありませんので、ご供養し

ジャーナリスト

「鳥越俊太郎」さん

インタビュー

住職

今日は、どうもありがとうございます。今回は、瑞岩寺の寺子屋講演会に先立ち、インタビューさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

鳥越

よろしくお願いします。

住職

私は、鳥越さんのポッドキャストをよく聴かせていただくのですが、以前、そこでお話しされていた「3つの年齢」について、少しお話しただけませんか？

鳥越

僕は、日常的に体計を測っているんですが、使っている体重計に「体内年齢」というのがありまして、僕の場合、48歳と表示が出てくるんです。僕の「実年齢」は今年で75歳、後期高齢

者ですよ。あまりに若い体内年齢が出るので、体重計が壊れているんじゃないかと、うちの奥さんに乗ってもらったところ、実年齢に近いものが出てきました。それで、これは壊れてないなと。(笑)

ただ、人間の「年齢」はそれだけではなくて、もう一つ、「心の年齢」もあると思っっているんです。それを測る機械はないので、自分で判断するしかないわけですけども。僕は、自分の心の年齢は18歳だと思っています。つまり、18歳の頃の心のありようと、今もまったく変わってない。年をとったという印象が自分にはなく、18歳の時のままずっと来ていると感じがしています。心の年齢は18歳、体内年齢は48歳、実年齢は75歳。面白半分に「3つの年齢」があると申し上げただけで、そんなに化学的な根拠があるわけではないんですよ。

住職

こうして実際にお目にかかっても、本当に若々しくていらっしゃる。ご著書『がん患者』の中でも、体を鍛えていると書かれていましたが、毎日鍛えていらっしゃるんですか？

鳥越

週に3回ジムに通っていますから、かなりの頻度ですよ。でも、それくらいやらないと筋肉がつきませんから。

住職

そのほかにも何か気をつけていることはあるのでしょうか？

鳥越

食事も多少気をつけています。あとは、タバコ、お酒はほとんどやりません。

住職

食事で気をつけておられるのは、具体的にはどこなところですか？

鳥越

一番は過食しない、大食しないことです。日本の仏教の高僧と言われる人たちは、長生きしておられますよね。鎌倉時代の法然上人は80歳まで生きておられる。当時の日本人の平均寿命

は、おそらく40歳にも満たなかったと思うのですが、その時代に80歳まで生きておられたわけですね。そして、法然上人のお弟子さんである親鸞上人は、90歳まで生きています。このお二人だけでなく、大抵の名僧高僧と言われる人たちは、長命ですよ。何故かというところ、お坊さんは基本的に修行をされていて、粗食だからだと思っんです。「粗衣粗食」という言葉があります。が、「粗衣」は法衣を来ておられるので健康とはあまり関係がなくても、「粗食」で、過食したり、大食したり、ご馳走をいっぱい食べているわけではない方々が長生きしていることに、やはりヒントがあると思っんですよ。

日本が非常に豊かになり、ご馳走をたくさん食べるようになって、平均寿命は伸びています。が、実は健康寿命はそれほど伸びておらず、平均寿命と健康寿命の間には10歳くらいの差があるんです。つまり、生きてはいるけれども介護が必要だったり、認知症で自分の力だけでは生きていけなかつたりという人が結構いらつっしゃるわけですね。これは単に生物的に寿命が長くなつていくということ、やはり法然上人や親鸞上人のように、死ぬまで健康寿命を保つていけるのが一番良いのではないのでしょうか。そう考えますと、あ

まrigご馳走は食べないほうがいいなと。お肉をいっぱい食べるとか、脂肪分をいっぱい摂るとか、そういうことはやめておいたほうがいいということですよ。

僕は、食事は1日2食しか食べません。朝はヨーグルトにバナナのスライスを入れて、ハチミツで味付けしたものとトースト1枚くらい。昼は何も食べません。そして夜は日によって違いませんが、よく食べるのは鶏のささみにブロッコリー、あとはポテトサラダ、肉じゃが、豚肉。それに納豆汁といつて、豆乳に生姜、にんにく、豆板醤、マロニー（春雨のようなもの）、納豆を入れて、それをごはんがわりに食べています。お米はほとんど食べていませんね。

住職

炭水化物に気をつけていらつしやる？

鳥越

でも、それでも体重は減らないですね。体重コントロールはずっとしています。時々外食をすると体重がちょっと増えるので、家に戻ったらまた元に戻すようにしていますけれど。今、身長が172・5cmくらいで、体重は67、68kgを行ったり来たりです。

住職 それが標準体重くらい？

鳥越 痩せてはいないですね。脱いだらわかりますが、筋肉はたくさんついていますよ。

住職 無駄な脂肪がないという感じなんですよ。

鳥越

できるだけ脂肪を落としたいですが、なかなかそうもいかないです。内臓脂肪や体脂肪はある程度ついていますよ。

住職

ありがとうございます。話は変わりますが、鳥越さんは大腸がんになられて、それをメディアに流して多くの方に知らせて、さらにがんを克服されたわけですけども、その内容についてお聞きしたいと思います。二人にひとりががんにかかるという時代、私の父も去年がんで亡くなりました。

鳥越

そうでしたか。どこのがんだったんですか？

住職 膵臓です。

鳥越

膵臓がんというのも見つけにくいんですね。

住職

がんと告知された時は、鳥越さんご自身、相当ショックを受けられたのではないですか？

鳥越

いえ、ショックは受けなかったです。僕は診察室で告知という行為を受けていませんが、もし受けていたらそれなりにショックだったかもしれませんね。ただ、診断の前からある程度予測はしていたんですね。便に少し血が混じったりしていましたから。それに、大腸の内視鏡の時に自分で見ましたのでね。「ああ、これががんか」と目撃したというのも、ショックを受けなかった原因だと思います。

そのあとは、肅々と入院、手術と進んでいくわけですが、僕の場合、子どもの頃から好奇心がとても強かったし、新聞記者をやっていたこともあって、最初に浮かんできたのは、「がんの本を書きたいな」ということでした。がん患者として、がんとは何なのか、自

分はどういう気持ちになって、どうなっていくのか、体はどうなっていくのか、手術はどういうことをするのか、こと細かく本にしたいという気持ちで最初からあって、そういう意味では絶好のチャンスだと思いました。そして、できあがったのがこの『がん患者』という本なんです。めでたくちゃんと本になりました。

住職

がんになった時に、これを書こうと思ったわけですか。

鳥越

そうです。それから先はずっとがん患者でありながら、患者を取材するもうひとつの人格がありました。ま、二重人格みたいなものですね。それであまりショックを受けなくてすんだのだと思います。

住職

記者時代から第三者的な見方が身に付いていらしたから。

鳥越

常に「ものを見る」と言う習慣が勝手に身に付いていましたよね。

住職

ご著書の中に、「ゆく川の流れは絶

えずして、しかももとの水にあらざ」という鴨長明の『方丈記』の句が出てきますよね。鳥越さん自身もそういったことを心に留めて、ものを見ておられるのでしょうか？

鳥越

本にも書きましたけれど、小学校6年生くらいの時、僕らが遊び場にしていたお墓でかくれんぼか何かをしていた時のことです。本当は入ってはいけないうえに、子どもですからね。お墓に隠れて何気なく見ると、墓石がずれていて中が見えたんですね。そこには素焼きの壺みたいなものがあったて、白い骨が見えたんです。その瞬間、僕は雷に打たれたかのようにワァッと言って走り出しました。それは、自分も最後はこうなるのか、命が消えるようになるんだという、なんとも言えない感情に襲われて、とりあえず走り出したんですね。

若い時は、死というものをなかなか受け止められないのですが、でも、最後はやがて自分の命も終わる。生と死について、ある意味で客観的な受け止め方がだんだんできるようになってきました。「ゆく川の……」という『方丈記』の書き出しには、この世の中の生きていくものにはすべて終わりがあり、終わりがあっても人間と

しては続いているという、ある種の無常観みたいなものが語られているわけですが、僕もそういうものを、時間をかけて会得した。「諦念」と言いますか、そんなにじたばたしても仕方がない、どうせ死ぬんだよと。だから細かいことにいちいち心を動かされることもなく、もっと明るく、前向きに自分の人生を生き切るような生き方をしたほうがいい。さらに言えば、死ぬ時に後悔しないですむような生き方をしたほうがいいと考えるようになったんです。本の中でも、そのことをお伝えしたかったんですね。

住職

禅宗に「父母未生以前の自己如何」という問答があるんです。お父さん、お母さんが生まれる前のお前はどこにいたのかという内容で、大きな命の流れといえますか、そういうことを和尚さんと問答するわけです。自分のお父さん、お母さんが生まれる前のことはわからないけれど、でも、まったくいかなかったわけではなく、どこかにいたと思うんですね。そういう命の流れ、仏教的な意識を、古くから日本人は心の底に感じているのかもしれない。鳥越さんはどう思われますか？

鳥越

仏教の影響もあるんでしょうけど

も、日本人は自然の中で生き、自然を愛で、大事にしていると思いますね。自然は生きていて、始めがあり、終わりがああるわけですね。日本人は季節感というものを大事にしますが、春夏秋冬の流れというものを、理屈ではなく、日常的に身に付けている。つまり、人生にも春のような若々しい時代、夏のように燃えるような時代、やがて陰りが出てくる秋がきて、最後は人生の終わりの冬の時代があるということ、自然とともに生きながら、心の底に持っているのだらうと思うんです。

住職

道元禅師も、「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえてすずしかりけり」と言われていて、共通するような部分がありますね。ところで、鳥越さんががんになられた時、ご家族の皆さんは驚くといいますが、鳥越さんのような境地にはなっていないしやらなかったように思います。ご娘さんがとてもショックを受けておられたようですよ。

鳥越

娘たちは涙を流していますけど、僕は見えないんです。家に帰って泣いたらしいとあとで知りました。妻もそれほど取り乱すことなく、普通に

いましたし。でも、そういう対応をしてくれてよかったと思っっています。がんになって自分のことで精一杯な時に、家族が取り乱してしまつたら、一家の主としてはその面倒もみなくちゃいけません。だから、家族にがん患者が発生した時に、ほかの家族はどうあるべきかは、考えましたよね。がんをちゃんと受け止める。取り乱したり、大騒ぎしたりしても仕方ないと思いましたが。

住職

お寺の檀家さんからも、「告知するとお父さんがとても気弱になってしまふ」と、「告知はやめたいけれど、どうすればいいでしょう」などと質問されることがあります。鳥越さんは、告知についてどう思われますか？

鳥越

その人、その人で違いますから、一律に「告知したほうがいい、しないほうがいい」とは言えないですよ。告知されたらがつくりして、病氣と闘う力も失せてしまうような人だつたらしないほうがいいですよ。それからやつぱり、末期でも闘う時間が残っていないというときに、あえて「あなた、あと1ヶ月しか残ってないよ」なんてことを言う必要はまったくないですね。最後まで本人が生きる力をちゃん



と持つて生き切るのが一番いいですよ。また一方で、本人がちゃんと身の回りの整理をしたり、最後の時間を有効に使いたいと言う人だったら告知したほうがいいですよ。がんの状況や本人の手柄にもよるので、状況判断をするのはなかなか難しいですが、医者とご家族が相談をして判断していくのがいいと思いますね。

住職

鳥越さんががんとわかった時、がんはステージ4だったんですね？ その時、がんと闘う気持ち、諦めのような気持ちはあったのでしょうか。

鳥越

なかつたです。諦めも、闘うと言う気持ちもあまりなかつたですよ。なるようになるだろうと思っていましたね。ただ、自分の場合は、なんとかやるだろうという気持ちもありました。

住職

楽観的にとらえていらつしやつたのでしょうか？

鳥越

僕は常にそうなんです。人生で落ち込んだり、ストレスを感じたりすることがないんです。いつも前向きにな

どと言うとかつこよく聞こえますが、要するにちゃんぽらん。いい加減なんです。ですから、どうせ死ぬのはわかってるのだから、今、深刻に考えなくても仕方ない。死ぬ時は死ぬだろうと言う気持ちですね。それは子どもの時に骨をみたときから始まって、人間の生と死についての一つの諦念に至り、また、諦めと同時に「そこまではちゃんと生きよう」という前向きな気持ちになつた。そういうものが年とともにずっと備わってきたから、がんになつて大騒ぎすることはなかつたです。

住職

ある意味、悟つていると言いますか……。

鳥越

仏教でいえば、悟りなのかもしれないですね。仏教の悟りというのは、基本的には生と死をちゃんと自分で受け止めるということですよ。お坊さんが修行して辿り着くのは、人間は生を受け、そして様々な人生を生きて、やがては永遠の死が訪れるということ、慌てず、騒がずにちゃんと受け止めるという境地ですよ。

これは僕が聞いた話なんです、ある消化器外科の先生と雑誌の対談をした時に、その先生が「鳥越さん、僕の

患者の中で、告知して一番ショックを受けたのはどういう人かわかりますか？」とたずねてこられたので、僕は、「それは、女の人ですか？若い人ですか？」と、いろいろ答えると、「違います。それはお坊さんです」と言われたんですよ。それで「お坊さんは日頃から修行して、生と死について皆さんにお説教しているのだから、ご本人にも生と死の悟りがあるんじゃないですか」と返すと、「いや、やつぱりお坊さんといえども、人間なんですよ」と先生がおっしゃる。長谷川さんは、これを聞いてどうですか？

住職

そうですね。道元禪師も、「生をあきらめ、死をあきらむるは、仏家大事の因縁なり」と『正法眼蔵』の中でおっしゃっています。生と死を見極めることが、仏の道の大きな問題であるといった意味になるのですが、私も、それを突き詰めるのが一番大事だと思つていますね。

鳥越

お坊さんの中にもいろんな方がいますからね。さきほどのお坊さんは、まだ若い人だったのでしょね。死後の世界があるとかないとか、仏教の宗派によって違うのかもしれないけれども、やはりお坊さんの仕事というの

は、人間というものが最後は朽ち果てるように終わることをちゃんと受け止め、どう生きていけばいいかを説くことじゃないかと。そういう人生だとわかったら、自分のやりたいこと、やるべきことを精一杯やって、死ぬ時にあおしておけばよかった、あれを食べたおけばよかった、ああいう女性に会っておけばよかったと、煩惱で後悔をしないで済むように生きることを、檀家の人や一般の人たちに語りかけることじゃないのかなと僕は思っているんですよ。

住職

本当にそうですね。2歳で病気になるって亡くなる赤ちゃんもいますし、90歳、100歳で亡くなる方もいらつしやる。時間ではないと思います。

住職

それから、ちよつとお聞きしたいと思っていたのですが、鳥越さんにはお孫さんがいらつしやいますよね？子育て、孫育てについてもお話をうかがわせてください。瑞岩寺では保育園もやっています、今のお母さん方の中には、過干渉といいますが、甘やかすといいますが、それがちよつと多いと感じているんですが。

鳥越

過干渉、過保護ですね。子どもの数が少ないですから、そんなものですよ。昔はね、過干渉、過保護なんてなかったですよ。僕は5人兄弟ですけど、親の記憶なんてほとんどありません。ほつたらかします。怒られて押し入れに閉じ込められたとか、そういう記憶はありますけれど。今の親は、子どもが1人か2人、多くても3人くらいでしょ。親が子どものことに過剰に介入しているいろいろ考える、そういう社会になってきましたよね。僕は子どものためにはよくないと思いますね。

基本的に、人間はサルと一緒にですよ。サルは、最初は親に抱きついていますが、あとは自分で生きていくようになります。それでも育つんです。そういうふうにはできるだけ自分で、自立して自分の人生を切り拓いていけるような育て方をすべきだと思いますね。親が子どもの代わりに考えて、子どもの代わりに道をつけて歩かせるような育て方は、決していいとは思いません。

住職

昔の子育ては「(乳児期は)肌を離さず、(幼児期は)手を離さず、(学童期は)目を離さず、(思春期は)心を離さず」だったと思うんですけれど、今は子どもが中学、高校、おとなになっても手を握っている感じで、ちよつと逆になっている気がしますね。

鳥越

会社の入社式まで親が来るっていうんですからね。僕の時が高校の入学式までは親が来ましたが、あとはもう来ませんでした。僕らの頃は、下に兄弟がいますから。それでも人間は育つんですよ。まあ、社会が豊かになると人間がどんどんダメになっていくような気がしますね。いろんな事件が起きているじゃないですか。あれはきつと豊かな社会になって、ハードルが下がったせいじゃないですかね。

住職

お釈迦様も、世の中が便利になればなるほど人は墮落するとおっしゃっています。その通りになっているような気がします。

鳥越

僕も最近の日本の社会を見ていると、本当にそう思います。昔は、「こういうことをしてはいけない」というハードルが結構高かったたので、そう簡単に乗り越えられなかったけれど、今は、それが低くなって、誰でもひよいと乗り越えちゃうんですよ。ちよつと気に喰わなかったらすぐ殺すとか、子どもが親を殺してしまうとか、男が女性を殺してどこかに捨てるとかね。この前ニュースに出ていましたが、どこかの病院の循環器内科部長を務めるエリート医者が、奥さんが浮気相手と呼び出して、蹴って、恐喝まがいのことをして強盗傷害で逮捕されていましたよ。これなんかエリート医者ですよ。そういうことをしてはいけない、したら自分の人生がめちゃくちゃになるってことはわかるじゃないですか。

これはなんなのかというと、時代の変化ですね。ハードルが低くて誰でも乗り越えられるから、何でもやっちゃう。人を殺してしまう、結構位の高い警察官が痴漢をする、校長先生が痴漢をするとかね、昔だったら考えられないことが日常茶飯事で起きている。これは今の豊かになった社会が生み出している一つの現象ですから、やっぱどこかに問題があるんでしょうね。

住職

メールで簡単に人とつながったり、いろんなものがボタンひとつで送られてきたり、便利になって自分の心の歯止めといいますが、「これはするけど、これは絶対にしない」というものが崩れてしまったようですね。

鳥越

今はいろいろなツールが出てきて、知らない人も出会うようになりまして。その結果うまくいったケースももちろんあるだろうけど、犯罪につながってしまったケースもいっぱいあるわけですよ。

住職

そうですね。携帯自体が凶器になるような時代ですね。

ここで、次の話題に移らせていただきます。漠然とした質問ですが、鳥越さんにとって豊かさ、また幸せというものは、どういったものでしょうか。

鳥越

豊かさというのはね、僕は決して良いことではないと思っているんですね。豊かになればなるほど人間はバカになりますから。今の日本の社会を見てもらんなさい。豊かさ故にこれだけ多くの犯罪が起きているわけですよ。もっと貧しい時代は、お互いに助け合い、思い合わなければ生きていけなかったですね。やっぱり、豊かになると人間墮落する、ダメになります。それはもう今の社会がはっきりと示しています。

幸せというのは、何が幸せかはわか

りませんけれど、一つには家族というのが人間社会の単位になっていますから、家族をちゃんと持つことができて、家族が互いに助け合って仲良く暮らしていく。これが幸せだと思わなくていい。それ以上の幸せってきつとないんじゃないかな。社会的な地位とか、いい会社に入るとか、お金がたくさん入るとか、いろんなことがあるでしょうけれど、それよりも、貧しくても、どれだけつましい生活をしていても、家族が仲良く暮らせていけば幸せだと思わなくていい。家族の関係が壊れてしまっている人もいっぱいいますが、それは幸せとは言えないですよ。物質的なものではなくて、心の幸せというのが一番大事だと思います。

住職

お寺ですと、遺産相続とかでもめてしまうご家族もいらつしゃいますね。お葬式の時にはいた人が、四十九日の時にはいないとか。私は、家族、子どもが仲良くするために、みんな使っちゃえて言っているんです。少ない金額でもめめますから、それが人間の欲なんですよ。欲というの、人間の本能のよう

鳥越

もので、限りがありません。この欲望をちゃんとコントロールできないと、

いい人生が送れないですよ。食欲だつて、食欲のままに食べていたら健康を害しますし、性欲も、性欲の赴くままにいろんなことをすれば犯罪に走ってしまうかもしれない。欲望というのも、自分でちゃんとコントロールできる範囲に止めないと。自分でどうしようもなくなるような欲を満たそうとすると、人生はめちゃめちゃになりますよ。そういう人は、おそらく死ぬ前に後悔するんじゃないでしょうか。

住職

そうかもしれないですね。

住職

最後に、9月の寺子屋講演会に来てくださる皆さんにメッセージがあればお願いします。

鳥越

たくさん来てください。それだけです。多くの人に聞いていただきたいですね。講演では、基本的には僕のがんの経験をできるだけわかりやすく、皆さんの役に立つようにお話するつもりです。今は2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代ですから、誰ががんになってもおかしくないですよ。ですから、がんについての基礎知識とか、がんになつたらどうしたらいいかということを、元

気なうちからある程度知っておけば、がんになった時も慌てないですむと思うんですよ。そういう意味では、僕のようにがんになり、一応生きている人間がお話することは多少参考になると思います。その辺をぜひ聞いていただきたいと思います。

住職

皆さん、大変参考になると思います。本日はどうもありがとうございます。

■ 鳥越俊太郎プロフィール

1940年3月13日生まれ。福岡県吉井町(現うきは市)出身。

京都大学文学部卒業後、毎日新聞社に入社。新潟支局、大阪社会部、東京社会部、「サンデー毎日」編集部(所屬)、外信部(テヘラン特派員)を経て1988年4月より「サンデー毎日」編集長。

1989年に退職して以降、テレビ朝日系列「ザ・スクープ」「サンデージャングル」でキャスターを務めるなど、テレビメディアに活動の場を移した。

2005年、ステージ4の大腸がんが発覚、肺や肝臓への転移を経て4度の手術を行った。2010年から始めたスポーツジムに加え2012年にはホノルルマラソン完走を果たすなど健康的なライフスタイルを貫いている。現在もさまざまなメディアで「ニュースの職人」として活躍中。

住職日記

さよならのカタチ

「寺に葬儀を取り戻す」ことを掲げる寺院がある。太田市矢田堀町の瑞岩寺。長谷川俊道住職（48）は「葬儀こそが寺にとって最大の布教活動だ」と指摘し、寺が主導して寺で執り行う葬儀の拡大を目指している。

米国ハワイの寺で住職を務めた経験を持つ長谷川さんは、2005年に実家の瑞岩寺に戻ってから「時代に対応した世間から必要とされる寺」を目指して改革を進めてきた。寺を開放して講演会やコンサートを頻繁に開いているほか、悩み相談の番組をネット上で公開。「税制面で優遇される寺には公共性がある」とホームページ上で決算書やバランスシートなどの財務諸表まで公開している。

長谷川さんは「布教と葬式には深いかわりがある」と説明する。飢饉や天災で多くの命が失われた時代、僧侶たちは供養することの意味と大切さを民衆に説き、寺院を拡大していった。本来のルートが寺にある葬儀を取り戻し、寺が主体的に葬儀を執り行うことが「仏教の素晴らしさを伝え、寺の信頼回復にもつなげたい」と考えている。

海外の寺院にいたこともあり、長谷川さんは現状の葬儀に疑問を抱くことが多い。例えば僧侶の読経。「最近の葬儀では遺族からも業者からも『僧侶はお経だけあげてくれればいい』と思われがちだが、それは違う。私たちはお経のスピーカーではない」。長谷川

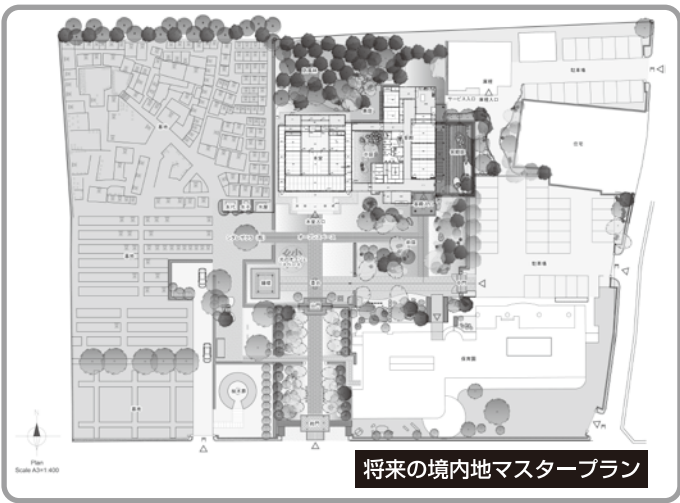
さんは葬儀をこれまで葬祭業者に任せきりにしていた僧侶の側にも、その責任があると考えている。

最愛の家族を失い、悲しむ遺族を救うことが葬儀の本質だと考える長谷川さん。「僧侶はそのためにできる限り努力すべき。我々から檀家に近づいていかなければ、葬式はいずれ消えてしまふ」と指摘する。

檀家が亡くなると、長谷川さんは必ず故人の枕元で経を上げる枕経に向く。遺族と対話して生前の故人について聞き取り、自宅や家族の雰囲気を確認して戒名を付ける際の参考にしている。現時点では一般の斎場での葬儀を選ぶ檀家がほとんどだが、その場合でも長谷川さんは葬儀の式次第や、故人の写真を使ったDVDを自作する。

費用の明朗さも追求する。「アマゾンでも棺が買える時代。不明瞭なセツト料金は理解を得られない」と細かい料金表を開示。低料金を目指し、長谷川さん自ら霊柩車や生花、食事などを直接手配する。葬儀に関連する布施や戒名料の目安も、基本的に明示している。

「もともと葬式は、このように僧侶が汗を流して行くものだった。だから僧侶は尊敬されていたし、頼られてもいた」。不透明な部分を少しでも排除し、自らも努力を重ねて檀家と向き合う。葬儀を寺に取り戻そうとする試みの中で、長谷川さんのそんな思いはより強くなっている。



瑞岩寺で執り行う家族葬

〈上毛新聞 さよならのカタチ
平成27年5月11日掲載文より
転載許可済〉

お知らせ

◆podcast好評配信中！
「HASEの金曜は聴きこみ寺」
ホームページからダウンロードできます！
最近、いつコンピニに立ち寄りしましたか？唐突な質問で困惑させてしまいましたね。普段の生活において、気軽にフラット、もしくは何か足りない時に近くのコンピニに立ち寄るのはよくある日常です。でも、こまった時、何か心に引っ掛かる悩みが生まれた時、あなたはどのようにしますか？当番組は、群馬県・太田市にある瑞岩寺の住職・HASEさんの、実はコンピニの倍近くの数が存在するお寺に、何かあればフラットと立ち寄ってほしいをテーマに生まれました。「職場の上司と反りが合わず仕事が苦痛です」「子どもの好き嫌いが多くて困っています」「ミュージシャンへの夢を捨てられず悩んでいます」「明日は初デート！どうしよう！」etc. 人には言えない悩みも、日常のささいな疑問もHASEさんにおつめてみて下さい。何かと忙しく、悩み多い日々。お耳をお貸し下されば、少し疲れたそんな心をHASEさんがチャクリとホンワカ癒やします。

【HASEへの質問・お悩み相談は】
kikikomi@zuiganji.com
ペンネーム、年齢、性別とともにお寄せ下さい！
・ iTunesでお聴きになる方には、
↓ <https://itunes.apple.com/jp/podcast/komatta-shino-tingkikomi-si/id624486999?mt=2>
・ PCで直接聴取される方は、
↓ <http://podcast5.kitag.jp/kikikomi/>

すべての人に佛さまの智慧と慈悲を
宗教法人 **慈眼山 瑞岩寺**
群馬県太田市矢田堀町388
TEL:0276-37-1231/FAX:0276-37-5535
E-mail:info@zuiganji.com
Website:http://www.zuiganji.com
ブログ <http://ameblo.jp/zuiganji/>
◆御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。
◆お身体をお大切に、お健やかにお暮らしくださいませ。
◆み仏さまの御加護を心からお祈りいたします。 合掌